

大阪市立



森之宮 小学校

郵便番号 536-0025
所在地 城東区森之宮1丁目6-64
電話番号 (06)6967-7811
FAX (06)6967-4661
校長名 坂本 政隆



【概要】 昭和54年「大阪市立森之宮小学校」として開校する。校区内には、医療関係の施設やJR西日本・大阪メトロの建物があり、大阪市の都市機能を支える重要な役割を担う地域に学校がある。2025年には、校区内に大阪公立大学が開校予定である。

【校訓】 「こころとからだをきたえ たくましく」

【めざす子ども像】 「深く考える子・仲よく思いやりのある子・健康で明るい子」

【教育目標】 「子どもの困り感を見極め、子どもの可能性を引き出す教育を創造する」

学年・学級編成	1年1組	1年2組	2年	3年	4年	5年	6年	ひまわり	合計
	19	19	23	36	23	26	27	(14)	173

【沿革】 服装・・・標準服 / 標準帽 登校・・・集団登校

運営に関する計画《中期目標》 (○は全市共通目標、・は学校目標、☆は方策)

【安全・安心な教育の推進】

- 「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を70%以上にする。
- 不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
- 前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。
 - ・自己肯定感に関する項目について、肯定的な回答をする者の割合80%以上を維持する。
 - ・あいさつに関する項目について、肯定的な回答をする者の割合80%以上を維持する。
- ☆「なかま集会」「あいさつ運動習慣」「集団活動」

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができているか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を70%以上にする。
- 小学校学力経年調査における国語・算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において、いずれの学年も前年度より3ポイント向上させる。
- 「外国語(英語)の勉強が好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。
- 「運動やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な回答をする児童の70%以上にする。
 - ・授業に関する項目について、肯定的な回答をする児童の割合80%を維持する。
 - ・運動に関する項目について、肯定的な回答をする者の割合80%を維持する。
- ☆「教員全員が年1回以上の校内研究授業実施」「協働学習」「体づくり」「健康や食についての学び」

【学びを支える教育環境の充実】

- 学習用端末を活用した学習を毎日実施する。
- ゆとりの日を週に1回設定、実施する。
 - ・ICT教育に関する項目について、肯定的な回答をする児童の割合80%を維持する。
 - ・ゆとりの日を週に1回実施する。
- ☆「学習用端末を活用した活動を毎日実施」「働き方改革の推進」

大阪市教育局では、令和五年度「全国学力・学習状況調査」「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」については、調査参加学年が単学級の学校の校長は、調査結果及び調査結果から明らかになった現状等を公表しないことができるものとしており、本校では、平均正答率を含む調査結果は公表いたしません。

令和五年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果の概要

調査人数が少人数であるため、個々の担うポイントが大きい。そのため、平均値のみで児童の体力・運動能力、運動習慣等の傾向を判断したり、経年比較したりすることは実に困難である。しかしながら、コロナや外遊びの少なさの影響からか、記録は芳しくない。「持久力と瞬発力」に課題があると考えられる。この傾向は今年に限らない。

【これまでの取組の成果と今後取り組むべき課題】

本校では日常の体育学習はもとより、冬の耐寒かけ足、なわとび等の取り組みを行い、児童の体力・運動能力の向上に取り組んでいる。水泳や耐寒かけ足等は低学年から距離・タイムなどの記録を残している。また令和四年度は、授業にて体幹を鍛えることにも取り組んだ。自己の記録の伸びを計るものとし、「がんばること」と「友だちと協力する喜び」を大切にしている。体育の授業は「楽しい」と答える児童が多いが、外遊びに興味がない児童が多いことも実情である。日々体を動かして遊ぶことの大切さと面白さを伝えていく必要がある。

令和五年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

国語科、算数科ともに全国平均を上回っている。基礎的な知識(語彙、計算)を反復することで、養うことができた。しかし、記述式の問題では、文章の関連を考えて書くことができる児童とそうでない児童の二極化が見られた。この要因を分析すると、①「情報を読み取り、要約すること」②「自分の考えを整理すること」③「自分の考えを他者と話し合い、交流すること」④「自分の考えを表現すること」である。国語科の説明文、算数科のデータの活用、理科の観察や実験、社会科の資料などから、グラフや表などから情報を読み取る力を身につけていくことが課題といえる。

【これまでの取組の成果と今後取り組むべき課題】

- ・特異な分野を伸ばすために、特に話し合い活動は今後も数多く取り入れ、友達の意見や考えを聞いて、考える機会を多くする。また、友達の使う言葉に関心を持たせ、語彙力の育成に努める。
- ・正解を求めるだけでなく、考えた過程を言葉にする機会を増やし、見通しをもたせることにも留意した授業を行っていく。
- ・オンライン学習に拘らない「深い学び」のためのタブレットをツールとして利用した新しい学習方法について工夫を重ねていく。タブレットを使用した調べ学習などを行い、自分の力で探求していく学習を増やす。

学校のアピールポイントなど

○ 縦割り班活動

小規模校の特性を生かし、本校の特色でもある縦割り活動をさまざまな場面でおこなっている。低学年は高学年を敬い、高学年は低学年を思いやる心を育成している。特に、高学年の育成を図り、低学年から「あこがれ」となる存在となるよう高学年の児童は行動をしている。何事にもまじめに熱心に取り組む高学年の姿勢が全校の児童に影響を与え、学校全体の落ち着いたアットホームな雰囲気を作っている。

○ 芝生の運動場

本校には、ひと際目を引く、大阪一大きな芝生の運動場がある。子どもたちは、体育の時間ももちろんのこと、休み時間にもふかふかした芝生の上を走り回っている。大きなけがも少なく、安心して遊ぶことができている。放課後には野鳥の姿を見ることができ、心にゆとりを与えている。



・互いに認め、高め合う集団
・リーダーシップと
フォロアーシップの育成
・「あたりまえ」のことをあたりまえに行う力



学校案内図 (14ページもあわせてご覧ください)

